第２回「第２のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議
議事概要

１．　日程

令和３年11月17日（水）10時30分～12時30分

２．　場所

オンライン開催

３．　有識者（五十音順）

井口委員、沢登委員、中村委員、深谷委員、三輪委員、矢ケ崎座長

４．　議題

新たな旅のスタイルに沿った滞在・移動環境

５．　議事概要

観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員より議題をもとにした意見交換を実施。

- ✓　今回は滞在、移動環境をテーマに議論を進めていく。
- ✓　幅広い層の来訪者に、安心とくつろぎを感じさせる環境を提供することが肝要。その上で、再来訪の自発的な動機を与え、交流や関係性の更なる深化をさりげなく促す「ヤド」「マチ」「アシ」の機能が必要。

○　委員からの主な意見

- ✓　議論の軸を整理する必要がある。対象が toB か toC のどちらかという観点と、促進要因・阻害要因としてどういう機能が必要なのかいう観点について整理すると理解が深まる。
- ✓　toC における促進要因として、宿泊施設が軸になる。旅行者が現地情報を求めるタイミングは、チェックイン時とチェックイン後の夕食までの間で、宿泊施設がハブである。加えて、緩やかなマイコンシェルジュがいれば、旅行者との接点深度化により、再来訪に繋がると考える。
- ✓　宿泊施設の役割は重要である一方で、地域のハブに至るには難しく、その領域に届いている施設は稀である。宿泊施設の事業モデルを抜本的に変えて、地域を一緒に取り込んでいくことが非常に重要である。
- ✓　観光地域づくりは、外部からのお客様と地元が相思相愛の関係になることが必

要で、地元側にお客様を受け入れることのメリットを示すべき。

- ✓ 今後の観光においては、地元の方がどう観光を活用して、生活を豊かにするのかという視点でも議論をしていくべき。
- ✓ 受入れ側（地域側）が来訪者をお客様扱いせず、通常は便利で快適なおもてなしがある状態を、逆にしたり、ずらしてみたりすることが大事。
- ✓ 地域で最低限必要なインフラ基盤は、電気・水道・ガスに加えて、ネットワーク環境である。その他は地域ごとに個別で検討すればいい。
- ✓ 「マチ」に関しては、知人友人づくりの為にも地域の資産を見つめなおして、来訪者に分かってもらえる状態にすることが肝要。
- ✓ 「アシ」の観点は、しっかりと議論すべき。移動手段についても、おもてなし感がなく、極端に不便でもなく、不快にならないという度合いが大事で、自由度を高くすることが必要。
- ✓ 地域を包括して連携していくことが大事で、「ヤド」「マチ」「アシ」のそれぞれの課題を共有して、地域全体で解決していく必要がある。
- ✓ 官民一体となり、地域を盛り上げることが課題で、地域全体で課題解決に取組むモデルケースをつくっていく必要がある。
- ✓ 促進要因として、「ヤド」がコアになることに加え、「食」の要素が非常に重要であり、広い意味での汎用性がある。その地域ならではという点でも大きなキーとなる。
- ✓ 地域全体で取組む切り口として、アートや音楽などの文化は必ず人が介在するので、キーになりやすく、人との関係性もつくりやすい。
- ✓ 「ヤド」が地域のゲートウェイであり、ハブである。人々が交流できるスペースや広場も必要。「マチ」にはフラットな関係性で、地域と訪問者をつなげる様々な機能があるといい。「アシ」は、サブスクやポイント活用、非現金化など、利用しやすいものを追求していくのがよい。
- ✓ 実証事業について、土地の規模感は、一つの温泉街や小さな町の規模が可視化の観点でもよい。